

繪本寫寶袋

九上

~~P
278
9~~

逍遙文庫
文庫6
1293
9



繪本寫寶袋九之卷目錄上

遠山小麒麟の巻

獅子小獅子の巻

花王に花狸の巻

鱖之圖

雨小席之巻

雀小象之巻

松小熊之巻

沢獣之圖

獅子に牡丹の巻

獅子之圖

谷水小虎の巻

松小豹の巻

波小犀の巻

松小野狐の巻

備前守
備前守
備前守
備前守

繪本寫寶袋九

秋毛野小跡
麋に猪大乃馬
猫兒之圖

織蕉子整大
艾蓉小雲猫
猿猴之圖

遠山麒麟

毛詩義疏曰
麟之為靈昭昭也
十為之長麟形
馬足圓蹄黃色
圓文白一角其端
有肉
四書大全曰肉角
麋身牛尾
字彙曰麟麋身
牛尾馬足圓
蹄五彩
腹下黃
高一丈二尺



寫綿衣卷

沃歎

飛龍の角あり
俗名大とよ



仕立
おん

獅子

千丈藤



後観

子の意と云るる
獅子の意と云るる
若れんは若れん
若れんは若れん

獅と後狛
為百獸長



狀虎の如く頭大
尾長し壯の尾上
茸毛本の如く
釣凡語牙耳耳
昂鼻而舞あり

黄文まうご
朱すま

青文並ろく
あつろま
まろり毛合
髪尾かこ





牡丹不元
飛觀二



御守

一角ありて
曲垂と分
皇陶氏
飛きたる
喰らず



狸

頰曰 狸小似て
象鼻 犀同 牛尾 虎足
黄白文 赤蒼白文
埋雅曰
柳首
射皮
魂箸



御守

虎谷水



谷水
虎



虎谷水



虎の爪は
 さりまじり物
 一生の力
 是れなり

寫錦成



雨の席

虎の山嶽の氣
 狀猶のわく
 大さ牛のわく
 芳徳の章
 牙
 歯
 衛健
 古大
 掌のゆ
 例利と
 頂短
 鼻

猫の服間
 虎の鼻先
 虎の鼻先
 虎の鼻先

寫錦成

松小豹

まろくらのちやちや
虎の首白く面
金珠の文の
中ごらんうらま
尾



金珠の文の

鳥居文

松の象



状大なる肥さるる面皺々
 と云しと云牙丸弁中
 長さの鼻ハささく
 象ハささく
 括弧一と子足九柱のや
 と云しと云く余り小肥さ
 中地灰白二枚あり

四ノ五

寫金



犀 頰曰三角の頂 額鼻と云
 二角の頂鼻と云あり
 水犀の背おすあやんのあし甲あり
 背の取胸の牛後大よ教是中節
 多く虫あり 凡三階

仕立

甲下若去朱すこま
 翅勇白らんせうあらしま
 文の中ごらんうま
 後ごらんうま
 凡聖の具為ごらん
 角ごらんうま
 うまうまごらんうま



松子熊



寫錦

五



洞野九

野の 物
 野 猪
 仕 儀
 下 野 肉 皮
 朱 才
 牙
 肉
 鼻 朱 肉 皮
 月 蹄 墨 具
 合 々
 合 々
 合 々



洞野九

九

秋野小外花



八雲御抄

寂道法師の云々
 幽句一花のあまきりふあそり
 多すあはなをとりひつはさ
 毎下のみなりは
 毎下のみなりは

後橋道よ和泉武部

かろくま
 こく地

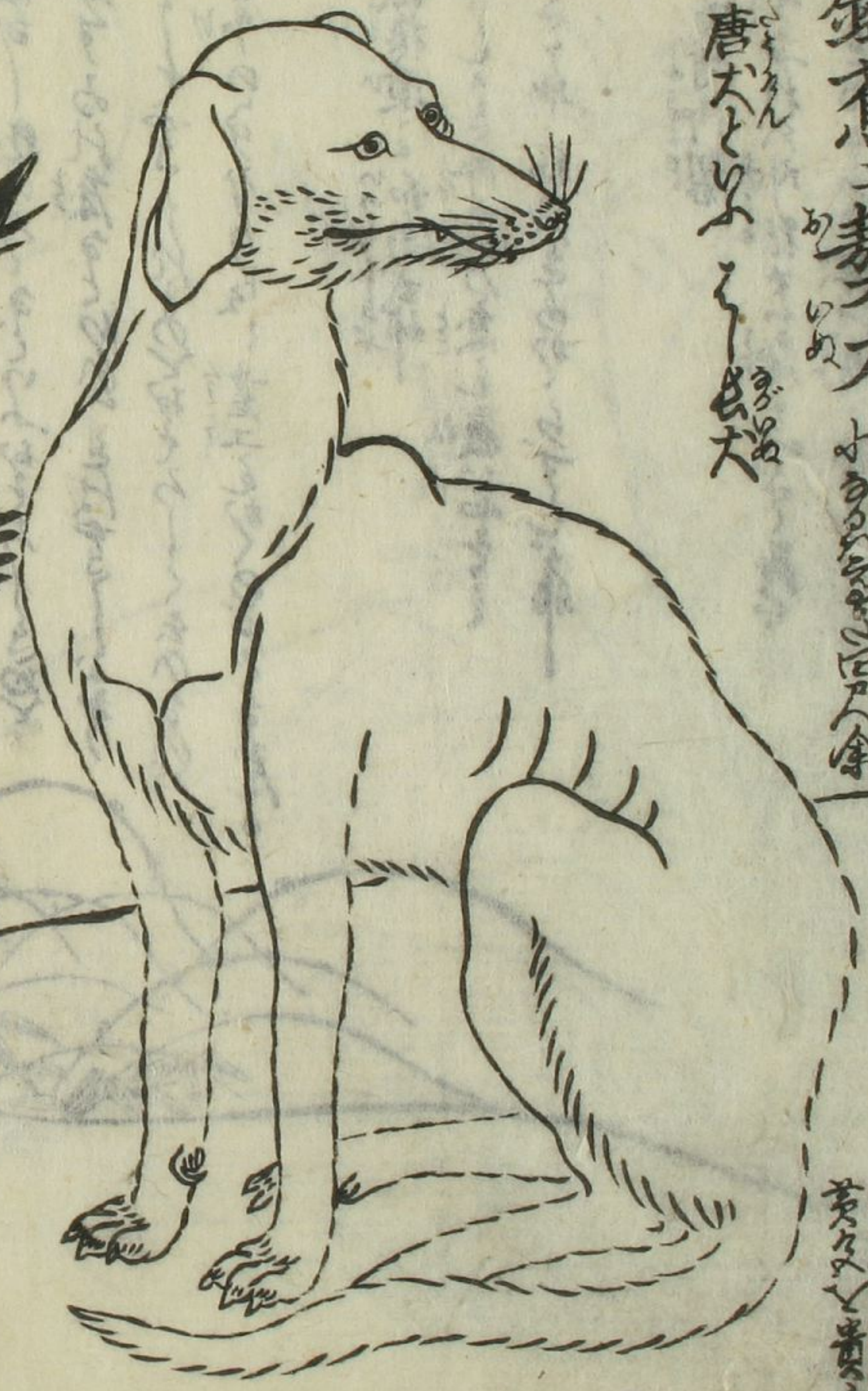
七百首御覧

年ふれが
 さきわらわの

鳥居



紫仕を緑にす
 又荒るくすかくる仕をとり
 うへ白緑 けいぶすのへ
 又荒るくすかくる仕をとり



鐵蕉二教犬

唐犬といふく

大さのちんちん
 小さのちんちん

白赤のり
 黄たつ貴子

馬車代

三

水犬身



水犬身

いぬ



いぬ
いぬ
いぬ

いぬ
いぬ
いぬ

いぬ



芙蓉
ふゆぎ

香艸あり
新香とんりや

芙蓉

芙蓉

霊猫
れいねこ



状狸の
黄文とんり

芙蓉

芙蓉



第...回
猫兒

第...回

第...回



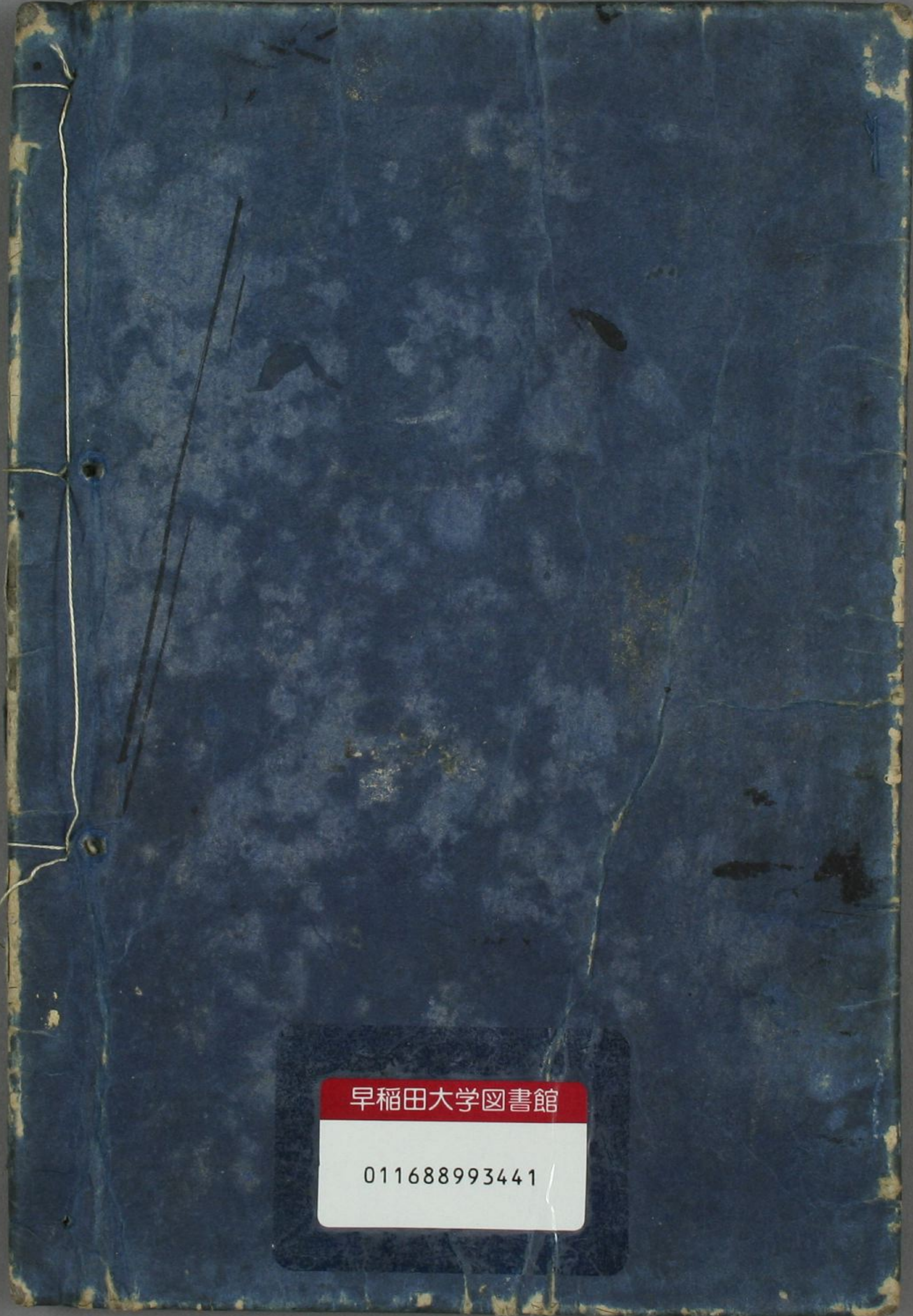
のらりきりざら
得長猿
俗に友太お通と云ふ



猿

集金録

三十三



早稲田大学図書館

011688993441